

*** 投稿規定および執筆要綱 ***

I. 投稿規定

1. 本誌は、一般社団法人青森県理学療法士会（以下、本会）の学術誌として、理学療法および関連領域における、実践報告と研究発表の場を提示することを主な目的とし、研究論文、短報、症例研究、実践報告、総説、討論・意見、資料・情報、その他を掲載するものです。
2. 投稿は本会の会員に限ります。ただし、本会学術局の決定により、会員外の著者に投稿を依頼することができます。
3. 原稿の採否、掲載順は本会学術局の学術誌編集部（以下、編集部）で決定します。2名の査読委員による査読の結果を元に、編集方針に従って、加筆、削除及び一部書き直しをお願いすることがあります。また、編集部の責任において、多少字句の訂正をすることがあるので予めご了承下さい。
4. 原稿は、楷書、横書き、口語体、現代かなづかいを用い、句読点は正確かつ明瞭に書いて下さい。数字は算用数字、数量は国際単位系(SI単位)を用いて下さい(例:m, kg, s, °C, Hz等)。原稿中の英数字はすべて半角文字で、片仮名は全角文字で記載してください。
5. 原稿は文献を含んで8,000字程度にまとめ、図表は原則で5枚以内とします。万一、図表が5枚以上となる場合には、**執筆要項<図・表について>**を参照の上、原稿文字数より減じてください。
6. 外国語名(地名、人名、その他)は、原則として原語を用い、活字体で明瞭に書いて下さい。術語はできる限り訳語を用い、必要に応じて()の中に原語を入れて下さい。
7. 著者校正は原則として、1回とします。
8. 他誌へ発表されたもの、または投稿中のものはご遠慮下さい。
9. 原稿は電子メールにファイル添付による提出を原則とします。電子メールは、できるだけ職場全体のアドレスは避け、個人のアドレスから送信してください。メール添付以外の提出方法を希望される場合には当誌編集部の窓口までご相談ください。
10. 本誌に掲載された論文、抄録、記事等の著作権は青森県理学療法士会に帰属します。また、印刷版面を利用して複写・複製(データベース化等の変形使用も含む)し頒布すること、翻訳・翻案・ダイジェスト等により二次的著作物を作成して頒布すること、および第三者に転載を許諾する権利は青森県理学療法士会に帰属します。著作者ご自身のこれらの権利を制限するものではありませんが、再利用される場合には事前に当士会までご一報ください。
11. 他著作物からの引用・転載については、著作権保護のため、原出版社および原作者の許諾が必要です。予め許諾を得てください。

II. 執筆要項

<原稿作成に関して>

1. 原稿を作成する際は、A4版の用紙(書式:1行文字数全角30字,1頁行数30行)を用い、図・表・写真・および文献を含めて規定の字数(8,000字以内)を厳守して下さい。
2. 本文余白には必ずページ番号を振って下さい(上下左右20~30mmの余白をとるようにして下さい)。
3. 原稿の1ページ目は表紙とし、原稿区分の種類、著者全員の氏名とその所属(施設名)、連絡責任者のE-mailアドレスを記載してください。編集区分の種類は、研究論文、短報、症例研究、実践報告、総説を表紙の左上に明記してください。
 - 1) 研究論文:新規性と独自性があり、結果から導き出された事象が一般化できるもの
 - 2) 短報:結果から導き出された事象が一般化できるが、データ量が少ないもの
 - 3) 症例研究:症例の臨床的問題や治療効果について、客観的データや文献考証を踏まえて提示し、考察を行ったもの
 - 4) 実践報告:研究・教育・臨床の実践の中で、新たな工夫や介入、結果等について具体的かつ客観的に情報提示し、その内容が有益と判断されたもの

- 5) 総説：著者の複数の原著論文，またはシステマティックレビュー等で，ある一定の研究成果を系統立ててまとめたもの
- 6) 討論・意見，資料・情報，その他：編集部より個別に執筆依頼した原稿，青森県理学療法士会より掲載依頼のあった記事および活動記録

※ 編集部から区分変更のお願いをする場合もあります。

4. 第2ページ目には，英語標題，著者全員の氏名と所属先(英語)を記載してください。必要に応じて，職種や学位を表す略語を記載してください。なお，これは本文の字数には含めないで下さい。
5. 第3ページ目には，和文要旨(800字以内)とキーワード(5個以内)を記載してください。和文要旨は，目的，対象，方法，結果，結語を含む内容としてください。キーワードは「Key words : 」と見出しを付けて，各キーワード間はセミコロン(;)で区切って下さい。なお，上記1-3ページ目の文字数は本文の字数に含めないで下さい。

(例) [論文題名] 脳卒中片麻痺患者の歩行と下肢装具

Key words : 脳卒中 ; 歩行 ; 下肢装具 ; 下腿三頭筋 ; 床反力

6. 第4ページ目以降には，原稿の区分に応じて，記載してください。
 - 1) 研究論文・短報：①はじめに(緒言)，②対象および方法，③結果(成績)，④考察(分析)，⑤結論(必要であれば)，⑥利益相反の有無，⑦謝辞(必要があれば)，⑧参考文献，⑨図表およびその説明(必要があれば)
 - 2) 症例研究・実践報告：①はじめに(緒言)，②対象および方法(必要があれば)，③結果または症例経過や実践例，④考察，⑤結論(必要があれば)，⑥謝辞(必要があれば)，⑦参考文献，⑧図表およびその説明(必要があれば)
 - 3) 総説：①はじめに(緒言)，②本文は項目分けをして記載していれば，形式は任意，③謝辞(必要があれば)，④参考文献，⑤図表およびその説明(必要があれば)
 - 4) 討論・意見，資料・情報，その他：形式は任意。編集部より指定がある場合にのみ規定。

<研究倫理>

対象者の試料・情報を使用した研究(データ計測，治療介入・等)，相手方の同意や協力が必要となる研究(面接調査，質問紙調査，行動観察・等)では，「対象」あるいは「方法」の項で以下のすべての項目を文章で記載する必要があります。

- 1) ヘルシンキ宣言への準拠
- 2) 個人情報の匿名化に関する説明
- 3) データの保管方法に関する説明
- 4) 対象者に対する倫理的配慮の説明方法(口頭，文章，あるいはその両方)
- 5) 対象者に対するデータ公表の有無とその方法に関する説明
- 6) 利益相反の有無に関する説明

<図・表について>

1. 図表は一括して本文の末尾とし，できる限り原寸大で添付してください。図表の大きさは，特別な場合を除いては最大でもA4版用紙に1枚ずつ収まる程度として下さい。
2. 図表サイズを指定する場合は(1頁大)，(1/2頁大)，(1/4頁大)，(任意)より選択できますので，図表の余白部分に記入して下さい。
3. 表1枚当りの相当文字数は，1/4頁大で400字程度，1/2頁大で800字程度，1頁大で1,600字程度となります。図表には図1，図2，あるいは表1，表2，のように番号を付けて，図の見出しは図下に，表の見出しは表上に，必ず見出し(表題)を付けてください。説明文が必要な場合は図表の下に添付してください。
4. 原稿(本文中)にはレイアウトせずに，挿入希望箇所を上下1行改行し，二重カッコ《》で囲んで《図○挿入》《表○挿入》と記載して下さい。

<引用・参考文献の記入方法について>

1. 文献は本文原稿の規定枚数内に収めて下さい。
2. 引用文献は引用順に、参考文献は著者の姓のABC順に、本文末尾に一括して記載して下さい。
3. 本文中においては必ず引用箇所の右肩に^{1), 1)-4)}のように肩番号を付して下さい。
4. 著者は単独執筆の場合はその氏名を記入して下さい。
5. 著者が3名以上の場合は2名のみ記載し、和文文献の場合は“○○○, △△△, 他”, 欧文文献の場合は“○○○, △△△, *et al.*”と書いて下さい。
6. 雑誌名は公式の文献略称を用いて下さい。

例：理学療法と作業療法 → 理・作・療法
総合リハビリテーション → 総合リハ
理学療法ジャーナル → PTジャーナル
リハビリテーション医学 → リハ医学
Physical Therapy → Phys Ther
Archives of Physical Medicine and Rehabilitation → Arch Phys Med Rehabil
Scandinavian Journal of Rehabilitation Medicine → Scand J Rehabil Med
American Journal of Physical Medicine & Rehabilitation → Am J Phys Med Rehabil

7. ピリオド(.), カンマ(,), コロン(:), セミコロン(;)の付け方に注意して下さい(下記凡例参照)。
8. 雑誌名の“巻”は必要に応じて記入し、通巻頁表示のある雑誌の場合にはできるだけ省略して下さい。
9. 訳者、編者等に関しては氏名及び書籍名の後に、“○○○(編)” “△△△(訳)”などを付けて記載して下さい。著者・訳者・編者名が英名の場合は、「姓, 名(イニシャル).」の形式とします。
10. 文献記載の形式は下記の通りとし、例に従って誤りのないよう注意して下さい。
注1)：()内の項目は必要に応じて記入して下さい。発行年は西暦で書いて下さい。
注2)：引用したページの記載方法は雑誌、単行本・書籍(和文, 欧文), インターネット記事(和文, 欧文)によって異なりますので誤りのないように注意して下さい。

[雑誌] 著者名：論文題名. 雑誌名. 西暦年号; 巻: 頁(最初 - 最終).

《例》

- 1) 岩田幸一, 北川純一: 覚醒サルを用いた鎮痛効果の評価法. 日本薬理学雑誌. 2005; 125: 99-102.
- 2) 萩野修平, 村田亮, 他: 習慣性胸鎖関節亜脱臼の一例. 肩関節, 2007; 31(2): 453-456.
- 3) Glassman SD, Berven S, *et al.*: Correlation of radiographic parameters and clinical symptoms in adult scoliosis. *Spine* 2005; 30(6): 682-688.
- 4) Welch TD, Ting LH.: A feedback model reproduces muscle activity during human postural responses to support-surface translations. *J Neurophysiol.* 2008; 99: 1032-1038.
- 5) Vainshelboim B, Kramer M, *et al.*: Physical activity and exertional desaturation are associated with mortality in idiopathic pulmonary fibrosis. *J Clin Med.* 2016; 5(8). Pii:E73.doi:10.3390/jcm5080073. PubMed PMID:27548238:PubMed Central PMCID:PMC4999793.
- 6) Norman CD, Skinner HA, *et al.*: eHealth literacy: Essential skills for consumer health in a Networked world. *J Med Internet Res.* 2006; 8: e9. doi: 10.2196/jmir.8.2.e9. PubMed PMID:16867972PubMed Central PMCID:PMC1550701.

[単行本・書籍] 著者名(訳者名): 書名. 編者・監修者名(編者の場合は(編)、監修者の場合は(監), (版)), 発行所名, 発行地, 西暦年号, 頁.

《例》

- 1) 嶋田智明, 平田総一郎 (監): 筋骨格系のキネシオロジー. (Neumann DA: KINESIOLOGY of the MUSCULOSKELETAL SYSTEM, Mosby), 医歯薬出版, 東京, 2005, pp.130-135.
- 2) 海野孝: 一般運動能力の構造とその発達の变化. 新版運動生理学入門. 松田岩男, 杉原隆 (編), 大修館書店, 東京, 1987, pp. 94-103.
- 3) Held JM: Recovery of function after brain damage: Theoretical implications for therapeutic intervention. In: Car JH, Shepherd RB, *et al.* (eds): *Movement science: Foundations for physical therapy in rehabilitation.* 2nd ed, Aspen, Maryland, 2000, pp.189-207.
- 4) Schamberger W: The mal alignment syndrome In: Schamberger W (ed): *The malalignment syndrome: Implications for medicine and sports.* Elsevier Science, London, 2002, pp.110-130.

[インターネット記事]国内の場合:著者名(編集者・監修者). 記事題名. 掲載日(更新日). 参照URL (引用日),
海外の場合: 著者名(編集者・監修者) [Internet]. 記事題名. 発行地: [最終更新日; 引用日]. 参照URL
《例》

- 1) 脳卒中理学療法診療ガイドライン部会. 理学療法診療ガイドライン (第1版). http://www.japanpt.or.jp/upload/jspt/obj/files/guideline/12_apoplexy.pdf (2017年11月10日引用)
- 2) 厚生労働省Webサイト. 医業若しくは歯科医業又は病院若しくは診療所に関して広告し得る事項等及び広告適正化のための指導等に関する指針. 平成19年3月30日付け医政発第030014号. <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/kokokukisei/dl/shishin.pdf> (2019年11月22日引用)
- 3) Cambridge.org [Internet]. Cambridge: Spotlight on neurodevelopmental disorder data that could help patients in future. [updated 2018 Oct 31; cited 2019 Nov 19]. Available from: <https://www.cambridge.org/jp/about-us/media/press-releases>

<その他の留意事項>

1. 著者校正は初校のみとし, 校正は誤植の訂正だけにとどめて下さい。校正の途中で, 文章や図・表を大幅に変更することは原則として認められません。
2. 校正の途中で表題や共著者名等, 目次に関わりのある部分を変更することは避けて下さい。止むを得ず変更する場合は編集部長へお知らせ下さい。